

臨床のきれはし Sheet7

浅田 英輔

Responsibility

仕事をしていてたまに生意気なことを提案したりすると、「それは誰が責任を取るんだ?!」と言われることがあります。こんなセリフを言うてしまう上司はぱっとしない人であることが多いのですがね。

世間でも「責任をとる」という言葉はちらほら見かけます。政治の世界でも「引責辞任」という言葉がありますね。何かしらの失敗の「責任をとって」辞任するというものです。政策の失敗であれば、「やるべきことをやっていない、できなかったから辞任」というのはわかりますが、この頃は「なんでもかんでも辞任」みたいにみえなくもありません。責任をとる＝辞任なのでしょうか。

ただ、失敗も認めないし、失敗してないのだから辞任もしないと居直る人は困ったものですがね。

また、芸能人が逮捕されると、全ての出演したものを隠してしまう姿勢もいかなものかと思います。「今後の仕事なくなる」のはある程度仕方がないとしても、「これまでの仕事もなかったことにされる」というのは「責任をとる」ことになるのでしょうか。

違法薬物を使った人が出演しているものを見たり聞いたりすると、薬物使用が冗長されるのでしょうか。CMなど、イメージが大事なものはまだわかりますが、アーティストなどの作品を店頭からなくしてしまうというのはただの「臭いものに蓋をする行為」でしかなく、なんの意味があるのかと疑問です。

責任のありか、責任の取り方が拡大、いや拡散してしまっているのではないのでしょうか。

○学校の責任

子どもに関わる分野ではとくに「責任の所在」を求められます。

学校にいる間、先生には子どもの安全に配慮する義務があります。それはわかります。でも、なんでもかんでも全部先生の責任にしてしまうのも違うのではないかなと思います。小学生、それも低学年なんて、なにをおっぼ始めるものかわかりません。最低限の安全配慮（「最低限」もわかりにくい言葉だし、人によってその定義は結構違うと思いますが）は必要ですし、重大事故はないようにして欲しいとは思いますが。でも、ちょっと転んだとかやけどしたとか、怪我しない程度のケンカになったとか、それは「そういうこともあるよね」としなければならぬのではないのでしょうか。ましてや、家で起きたことも学校の責任にするのはどうなのでしょう。



私の子どもが通っていた小学校でも、自転車の規則があります。雪が降ったら乗ってはいけないだとか、4月何日に自転車解禁だとか。また、「学区外に子どもだけで行ってはいけない」というものもあります。

同じように、高校でも「バイトはしてはいけない」「車やバイクの免許を取ってはいけない」などなどです。

これらはもともと、子どもを守るため、不必要に危険な目に合わせないために考えられたルールだと思います。学区外のショッピングセンターなどでは誘惑もあることでしょう（だったら学区内にある学校はどうかとありますが）。今も全くないわけではないでしょうが、車やバイクが「不良」だった時代もありました。

そのように、もともとは子どもを守るルールだったのですが、今となっては「余計なこと」のように思えます。子どもだけで繁華街に行ってはいけないのなら、家庭で規制すればいいのです。バイトも免許も、家庭で決めればいいのです。私なんかは、高校生のころにアルバイトのひとつくらいやっておいてほしいとさえ思います。親もそんなに経済力ないんだから、自分の小遣いは自分で稼いだっていいじゃない。

「そこまで家庭に力がない」という意見もあるかもしれませんが、そうやって家庭でできないことを学校が引き受けることにより、家庭の決定する力を奪ってきたのだとも言えます。

それに伴って、先生の責任が増えていきました。家庭内、学校外でのことに先生が責任を持つ必要があるでしょうか。もちろん、家庭で起きたことに学校生活が影響することは大いにあるし、先生が「家庭で起きたことだから知りません」でよいとは思いません。

でも、いまよりもう少し、家庭と学校の領分について考え直し、分けてみることはよいのではないのでしょうか。家父長制度を維持することにヒステリックな主張をすることよりも、家庭の力を取り戻すにはとても有効な手ではないかと思います。

○児童相談所の責任

児童虐待防止についても同じようなことが言えるかもしれません。「乳幼児の虐待死をゼロにする」のは、果たしてできるのでしょうか。目指すのはかまいません。そりゃあ、虐待で亡くなる子は絶対にいないほうがいい。子どもに限らず、虐待はゼロのほうがいい。でも、子どもが亡くなるたびに「誰の責任だ？」とする論調はどうも納得できません。死ぬこと、特に子どもなど若い年齢での死には、なんらかの原因が明確であることは多いし、病気や事故でない場合は避けられたのではないか？と思うことも多いでしょう。児相が、学校が、保健所がこれこれをしていれば避けられたのではないか？という検証も必要です。ただしそれは、対症療法だけであってはならないのです。「ここで声かけしていれば」「ここで気づいていれば」というレベルの話だけではないはず。虐待してしまう親が孤立しているのはなぜか、そもそも「若者が孤立してしまうのはなぜか」「孤立している子どもをどうしようか」といった問題になるはず。そこは学校教育の問題や、性教育の問題、政治的な予算の問題などがあるはず。そこに全く触れずに「小学校児童全員へのアンケート」「虐待ケース全ての所在確認」など、単に現状を把握する方向に進むと、効果は大して得られない上に現場は疲弊していきます。「これ無駄だよなあ」という仕事は、人をとても疲弊させます。

こう考えてみると、責任責任ってうるさいけど、上のほうの人は誰も責任取る気なんかないんじゃないかなと思います。「全員アンケート」をやるのが責任なのかな？

児相の機能強化って、人を増やすことだけなのかな？いろんな職種を非常勤で配置すればいいことなのかな？

○SNSの責任

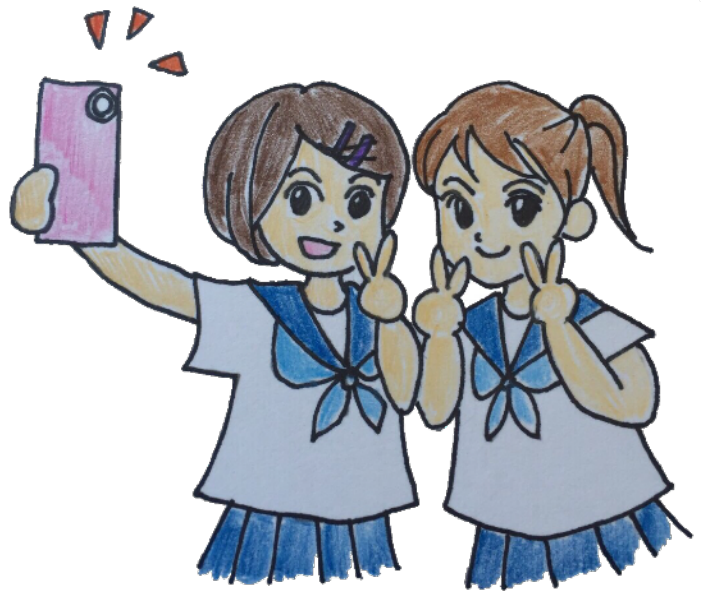
ネットの世界は、因果関係を複雑化させます。責任問題もややこしくなります。「風が吹けば桶屋が儲かる」ではないですが、「それが私の責任なの??」などといったことも起こります。

例えば、小学生がSNSでやりとりしていた大人に会いに行き、誘拐されてしまう。これはもちろん、「小学生とはいえ無防備すぎだ」「親は何をしていたんだ」「学校は指導していないのか」といった「落ち度」や「こうしておけば防げたかもしれない」というものはあると思います。でもこれを「学校の責任だ」「親の責任だ」「学校でもっときちんとネットについて指導するべき」とするのはあんまりじゃないでしょうか？この場合の責任は、全面的に誘拐犯にあります。他の人は、改善すべき点はあるにしろ、謝るべき点は全くありません。責任を取る必要はないのです。

いつも思うのですが、ネットリテラシーを教えるのは学校の役目なのでしょうか？授業でやるのはとてもよいし、むしろ教えるべきだとは思いますが、「教えるのは学校の責任だ」「教えなかった学校が悪い」とするのは違うと思います。

「SNS使用禁止」としている学校もあると聞きますが、それって学校がやるべき規制なのか??とかなり疑問があります。

SNSの間違った使い方により、問題が他の生徒にも波及した場合は、対応が必要になると思います。でもそれは「規制してない学校が悪い」のでしょうか。



一番言いたいことは、「責任責任って言い過ぎじゃねえのかな？」ってことです。

責任をとる人が必要な場合があるのは重々承知ですが、「誰かを辞めさせれば丸く収まる」「とりあえずの表面的な対応をとっておけばよい」「文句いわれてもめんどくさいからかくしとけ」「よくわからんけど学校、先生のせいにしておけばよい」というだけの、誰も本当の責任なんて考えていない対応が多すぎるのではないのでしょうか。

物事には落とし所が大事なことはありますが、落としておけばよい、というものでないですよ。

「責任をとる」ってことがなんなのかよくわからないけど「責任とれ！」って言うておけば勝ち、みたいな雰囲気からは、何も生まれないのではないかと思います。

次からどうしたらいいか、どこから改善していく必要があるのかを考えて実行していくことが、責任じゃないのでしょうか。